Hara Museum of Contemporary Art

リー・キット「僕らはもっと繊細だった。」

2018 年 9 月 16 日（日）—12 月 24 日（月・祝）　主催・会場＝原美術館

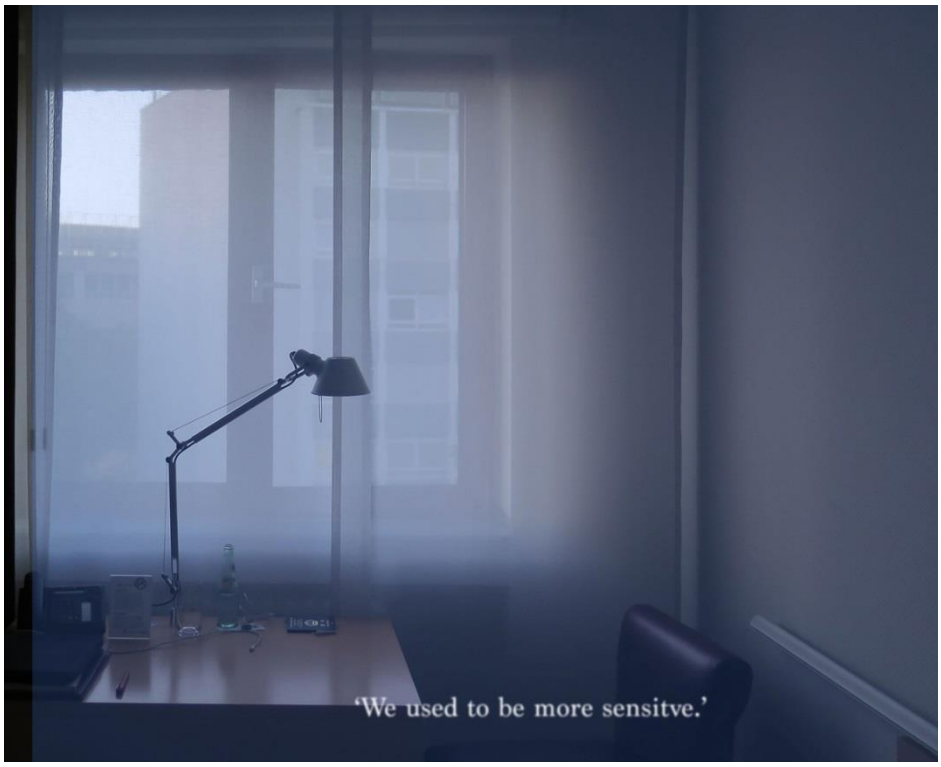
《図版 1》©Lee Kit, courtesy the artist and ShugoArts

2013 年ヴェネチアビエンナーレで脚光を浴び、アジアのアートシーンを牽引する注目の作家リー・キットが、2018 年秋、日本の美術館では初の個展を開催。原美術館のための新作インスタレーションを発表。

現在は台北を活動拠点にするリー・キット（李傑／Lee Kit）は、中国への返還（1997 年）を経て変貌していく故郷・香港でアーティスト活動をスタートしました。

初期作品のうち、布に絵具で格子柄などを描いた絵画シリーズは、色と柄のある“抽象”絵画でもあれば、日用品としての機能をもった布（＝テーブルクロスやカーテン等）という姿・形を備えた“具象”であるとも言え、絵画の概念を広げる革新的な作品群でした。そして 2013 年、ヴェネチアビエンナーレ香港館の屋内外に展開した自在なインスタレーションは、ウォール ストリート ジャーナル紙が「必見の展示ベスト 5」に挙げるなど、国際的な注目を集めていきました。近年は、絵画やドローイング、プロジェクターの光や映像、さらには家具や日用品等を配置し、展示空間全体を淡い色調の絵画のように仕上げたインスタレーションに力を入れ、欧米アジア各地で発表を続けています。

独特の歴史的背景を持って揺れ動く街・香港を出自とするリー・キットは、アートという開かれた表現を通して自身のあり方を問い、自分が今を生きる世界と向かい合おうとしています。そして、展覧会を開催する場合、その街、その場所の空気や感情に静かに寄り添い、サイトスペシフィックな作品（＝特定の場所に存在するために制作すること）を創り上げるのも大きな特徴です。近年の東京での個展（資生堂ギャラリー、シュウゴアーツ）で発表した作品も、東京の空気や人々から感じ取ったものが根底にあります。したがって、元は原家の私邸であり、第二次世界大戦を乗り越え、GHQ から返還された後に美術館として 40 年の時を経ようとしている原美術館は、そのようなリーにとって、これ以上ない時空間であると考えています。リーがここで何を感じ、どのような“絵画”を描くのか、本展はリーの魅力が遺憾なく発揮される機会となります。



《図版２》 ⓒLee Kit, courtesy the artist and ShugoArts

リー・キット（李傑／Lee Kit） 略歴

撮影者：武藤滋生

1978 年香港生まれ。2008 年香港中文大学美術学部修士課程修了。台北を拠点に、アジア、アメリカ、ヨーロッパ各地で滞在制作を行い、美術館、ギャラリー、アートスペース等での発表を続けている。2013 年、ヴェネチアビエンナーレの香港代表。2016 年にはウォーカー アート センター（アメリカ、ミネアポリス）と S.M.A.K.（ベルギー、ゲント）において個展を同時開催。2017 年にはパレ ド トーキョー（フランス、パリ）の「Sous le regard de machines pleines d'amour et de grâce」展に参加。日本では、2010 年よりシュウゴアーツにて 3 度の個展の他、2015 年に資生堂ギャラリーにて「The Voice Behind Me」展を開催。広島市現代美術館のグループ展「被爆 70 周年 ヒロシマを見つめる三部作／ふぞろいなハーモニー」（2015 年）に参加。

【開催要項】

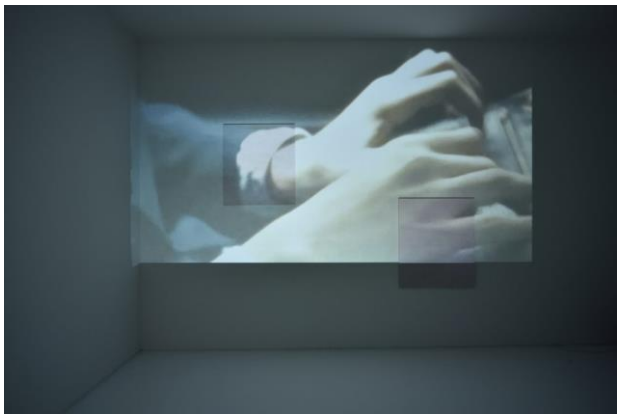
展覧会名： リー・キット「僕らはもっと繊細だった。」
英語題名 Lee Kit 'We used to be more sensitive.'
会期： 2018 年 9 月 16 日（日）—12 月 24 日（月・祝）
主催・会場： 原美術館
協賛： 株式会社資生堂
協力： シュウゴアーツ
開館時間： 11:00am-5:00pm（祝日を除く水曜は 8:00pm まで／入館は閉館時刻の 30 分前まで）
休館日： 月曜（祝日にあたる 9 月 17 日・24 日、10 月 8 日、12 月 24 日は開館）、9 月 18 日・25 日、10 月 9 日
入館料： 一般 1,100 円、大高生 700 円、小中生 500 円／原美術館メンバーは無料、
学期中の土曜日は小中高生の入館無料／20 名以上の団体は一人 100 円引
交通案内： JR「品川駅」高輪口より徒歩 15 分／タクシー5 分／都営バス「反 96」系統「御殿山」停留所下車、徒歩 3 分／京急線「北品川駅」より徒歩 8 分

【関連情報】
＊日曜・祝日には当館学芸員によるギャラリーガイドを実施（2:30pm より 30 分程度）

＊Meet the Artist：リー・キット
日時：9 月 16 日（日）2:00-3:30pm 場所：原美術館ザ・ホール　料金：無料（要入館料）　定員：80 名
受付開始日：2018 年 8 月 28 日（火）より　受付方法：電話（03-3445-0651）またはＥメール（event@haramuseum.or.jp 宛、件名「Meet the Artist リー・キット申込み」、本文に氏名、日中ご連絡可能な電話番号、参加人数をお書き添えください）

原美術館
住所　東京都品川区北品川 4-7-25　〒140-0001
Tel　03-3445-0651（代表）　E-mail　info@haramuseum.or.jp
ウェブサイト http://www.haramuseum.or.jp　ブログ　http://www.art-it.asia/u/HaraMuseum
携帯サイト　http://mobile.haramuseum.or.jp　Twitter　http://twitter.com/haramuseum

【広報用図版】
ご希望の図版番号をお申し付けください。メインビジュアルは p.1、2 に掲載されている《図版 1》、《2》です。下記は参考図版（過去の個展展示風景）です。掲載時はトリミングや文字載せはご遠慮ください。またクレジットを必ずご記載ください。



《左・図版 3》 個展「Not untitled」（シュウゴアーツ、2017 年）より「Only the wind」 ⓒ Lee Kit, courtesy ShugoArts （参考図版）
《右・図版 4》個展「Hold your breath, dance slowly」（The Walker Art Center、2016 年）より展示風景 ⓒ Lee Kit, courtesy the artist and ShugoArts （参考図版）

■取材・広報用図版提供に関するお問い合わせ：原美術館＝広報 松浦、野田 担当学芸員＝安田、坪内
Tel 03-3280-0679（直通） Fax 03-5791-7630（直通） Ｅメール press@haramuseum.or.jp

その後の展覧会／「ソフィ カル―限局性激痛」原美術館コレクションより（仮題）2019 年 1 月 5 日（土）－3 月 28 日（木）（予定）